



法律専攻「演習」

第 1 次募集



【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容

➤ 甘利 航司 先生 2020/11/16 ゼミ内容修正	11 頁	➤ 佐古田 真紀子 先生 2020/11/17 ゼミ内容修正	24 頁
➤ 一木 孝之 先生	12 頁	➤ 捧 剛 先生	25 頁
➤ 稲垣 浩 先生	13 頁	➤ 佐藤 俊輔 先生	26 頁
➤ 上神 貴佳 先生	14 頁	➤ 佐藤 彰一 先生	27 頁
➤ 植村 勝慶 先生	15 頁	➤ 佐藤 秀勝 先生	28 頁
➤ 大江 毅 先生	16 頁	➤ 芝崎 祐典 先生	29 頁
➤ 桶田 和子 先生	17 頁	➤ 鈴木 達次 先生	30 頁
➤ 小原 薫 先生	18 頁	➤ 関 哲夫 先生	31 頁
➤ 門広 乃里子 先生	19 頁	➤ 高内 寿夫 先生	32 頁
➤ 菊田 真司 先生	20 頁	➤ 高橋 信行 先生	33 頁
➤ 川合 敏樹 先生	21 頁	➤ 高山 奈美枝 先生	34 頁
➤ 川村 尚子 先生	22 頁	➤ 羅 芝賢 先生	35 頁
➤ 坂本 一登 先生	23 頁	➤ 中川 孝博 先生	36 頁

➤ 中曽根 玲子 先生	37 頁
➤ 長又 高夫 先生	38 頁
➤ 姫野 学郎 先生	39 頁
➤ 平地 秀哉 先生	40 頁
➤ 廣瀬 美佳 先生	41 頁
➤ 福岡 英明 先生	42 頁
➤ 藤嶋 亮 先生	43 頁
➤ 宮内 靖彦 先生	44 頁
➤ 宮下 大志 先生	45 頁
➤ 本久 洋一 先生	46 頁

[【目次に戻る】](#)

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 次 募 集	
応 募 期 間	11月18日（水）12時 ～ 12月1日（火）12時50分
選 考 期 間	12月3日（木） ～ 12月9日（水）
合 否 発 表	12月11日（金）20時予定 ／ K-SMAPYⅡにて

※第2次募集の実施は第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2021年1月8日（金）12時 ～ 1月15日（金）12時50分
選 考 期 間	2021年1月18日（月） ～ 1月23日（土）
合 否 発 表	2021年1月27日（水）20時予定 ／ K-SMAPYⅡにて

※第3次募集の実施は第2次募集の応募状況によって決定します。実施する場合の日程等は、決定次第お知らせします。

【応募方法】

K-SMAPYⅡ より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

[【目次に戻る】](#)

2. 募集に関する注意事項

※第2次募集より新任教員の演習(民法分野)に応募することができる予定です。
 新任教員の演習(民法分野)を希望する場合は第2次募集において、応募をしてください。
 募集要項等の詳細は決定次第ご連絡いたします。

※齋藤隆夫先生のゼミは今年度までとなりますので次年度の募集は行いません。
 後任については現時点では未定のため、詳細が決定次第ご連絡いたします。
 2020/11/16 内容修正

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外に応募は認められません。
- (イ) K-SMAPY II からの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ず K-SMAPY II から応募も行ってください。
- (ウ) ゼミごとに募集対象者が決められています。応募登録前に、募集要項で、自分が応募できるゼミはどれかを必ず確認してください。もしも募集対象外のゼミに応募してしまった場合には不合格となりますので、十分注意してください。
- (エ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (オ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (カ) 演習は、月～土の1限～6限の間で開講される予定です。具体的な開講曜時は、時間割の発表時に確認してください。
- (キ) 政治科目の演習は、政治専攻の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」との合併開講です。
- (ク) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。
- (ケ) 各教員の連絡先に関する問い合わせにはお答えできません。
- (コ) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～土曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
甘利 航司	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自招侵害 一具体例をあげつつ、どういう場合に正当防衛の成立を否定するのか—	(書式)自由 (字数)800字以上
			締切日時	12月1日(火)12:50		
一木 孝之	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	民法財産法（民法総則・物権・債権総論・債権各論）科目を受講した際、「興味深いけれどもわからない」と感じた論点について（1）「ここまではわかったこと」、（2）「ここからわからないこと」	(書式)A4 (字数)(1)400字、(2)400字、計800字
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月3日(木)11:00～13:00		オンラインにて	
稲垣 浩	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp	①最近気になった行政・地方自治の話題 ②本ゼミへの志望動機	(書式)A4用紙(40字×36行) (字数)題目①500字以上800字以内 題目②300字程度
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月4日(金)13:00～		オンラインにて	
上神 貴佳	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	本演習を志望する理由	(書式)自由 (字数)1000字程度
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月7日(月)16:20～16:50		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
植村 勝慶	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 kemushi@kokugakuin.ac.jp	備考欄参照	提供する書式に記入の上で教員宛に返送してください
			締切日時	12月4日(金)12:34		
		面接	12月5日(土)14:00～		オンラインにて	
大江 毅	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	ゼミ志望理由について	(書式)指定しない (字数)制限しない
			締切日時	12月1日(火)12:50		
桶田 和子	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 okeda_k@ymail.plpala.or.jp	「演習を受講するにあたって」（自己紹介、志望動機、将来について、どんなゼミにしたいかなど）	(書式)A4横書き (字数)1600字程度
			締切日時	12月1日(火)12:50		
小原 薫	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 ohara@kokugakuin.ac.jp	小原ゼミへの志望理由と最近関心のある政治、社会問題について	(書式)自由 (字数)800字程度 現ゼミ生はレポート・面接免除
			締切日時	12月4日(金)17:00		
		面接	12月9日(水)12:00～17:00		オンラインにて	
門広 乃里子	・現2年生 ・すべての現3年生	面接	オンライン面接を行います。面接の日時及び実施方法については、12月1日(火)12:50までに次のメールアドレス宛にお問い合わせください。 kazokuhou.zemi@gmail.com		オンラインにて	
菊田 真司	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 karita@kokugakuin.ac.jp	自己紹介とゼミの志望理由	(書式) WordA4横書 (字数)800字程度
			締切日時	12月3日(木)17:00		
		面接	12月4日(金)12:10～		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
川合 敏樹	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 t-kawai@kokugakuin.ac.jp	(1)自己紹介 (2)このゼミの志望理由 (3)ゼミで考察したい問題とその理由 (4)どのようなゼミを創り、その中でどのような活動をしたいか (5)メールアドレス	(書式)自由 (字数)1200字程度
			締切日時	12月1日(火)23:59		
		面接	12月3日(木)10:00~13:00		オンラインにて	
川村 尚子	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 naokawamura1989@kokugakuin.ac.jp	①自己紹介 ②民法（特に財産法）分野で興味のあるテーマ ③ゼミに求めるもの、ゼミで果たせる役割	(書式)Word (doc.またはdocx.)形式, 文字の大きさ 10.5ポイント (/2,000字程度)
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月4日(金)10:00~16:00		オンラインにて	
坂本 一登	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp	志望理由と興味を持っていること	(書式)自由（但しwordで作成すること） (字数)1000字程度
			締切日時	12月2日(水)17:00		
		面接	12月3日(木)16:00~17:00		オンラインにて	
佐古田 真紀子	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 sakota@kokugakuin.ac.jp	自己紹介、志望動機、ゼミに期待すること	(書式)Word (字数)1000字程度
			締切日時	12月1日(火)20:00		
		面接	12月3日(木)12:10~14:30		オンラインにて	
捧 剛	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 sasage@kokugakuin.ac.jp	指定された英文の内容に対する自分の意見	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	12月6日(日)23:59		
		面接	12月8日(火)12:00~13:00		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
佐藤 俊輔	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp	①本演習の志望動機、および ②現在関心を持っている国際政治上の現象・問題について	(書式)Wordファイル・A4 (字数)1000字以上
			締切日時	12月1日(火)12:50		
佐藤彰一	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 satosho99@kokugakuin.ac.jp	私の考える社会的排除	(書式)ワード形式A4用紙 (字数)1000字以上2000字以内
			締切日時	12月9日(水)24:00		
佐藤 秀勝	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①志望理由、②法に関する最近の話題を1つ選び、議論の状況と自分の意見を述べる、③メールアドレス	(書式)特になし (字数)2500～3000字程度
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月4日(金)13:00～15:00 (時間については応募者の人数より変更あり)		Zoomにて	
芝崎 祐典	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 lecture.shibazaki@gmail.com	募集要項を参照してください。	(書式)Wordで作成して下さい。 (字数)800～1000字
			締切日時	12月1日(火)12:50		
鈴木 達次	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自己紹介文(なお、ゼミ生は提出不要)	(書式)指定なし (字数)800字程度
			締切日時	12月1日(火)12:50		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
関 哲夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 tseki@kokugakuin.ac.jp	以下の(1)及び(2)について、指定した文字数で書いてください。 (1) 結果無価値論と行為無価値論の対立について説明した後、自分の見解を論述しなさい。 〔2,000～2,500字程度〕 ＜参考＞関哲夫『講義刑法総論』（第2版・2018年）43～46頁 (2) 刑法ゼミで自分がやりたいこと,やってみたいことを書きなさい。 〔500字程度〕 〔応募者へ〕レポート送付の際に、Zoom面接で使用するメール・アドレスを記入してください。	(書式)A4横書き パソコンで入力すること (総文字数)2,500～3,000字程度
			締切日時	12月3日(木)正午(12:00)		
		面接	12月4日(金)12:10～13:00		オンラインにて	
高内 寿夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 takauchi@kokugakuin.ac.jp	少年法または少年問題で関心のあるテーマについて	(書式)A4版用紙横書き (字数)300～500字
			締切日時	12月9日(水)正午12:00		
高橋 信行	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 n-takaha@kokugakuin.ac.jp	最近の行政法関連のニュースで興味をもったもの	(書式)A4 (字数)1000字
			締切日時	12月3日(木)12:00		
		面接	12月3日(木)13:00～16:00		オンラインにて	
高山奈美枝	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 namie.takayama@outlook.jp	志望理由	(書式)Wordファイルにて提出してください (字数)自由
			締切日時	12月9日(水)12:50		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
羅 芝賢	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①一番好きな本を取り上げ、好きな理由を述べよ ②ゼミの志望理由	(書式)自由 (字数)800～1,000字
			締切日時	12月1日(火)12:50		
中川 孝博	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 t-nakagawa@kokugakuin.ac.jp	「志望動機」、および、「あなたはこのゼミにどのような貢献ができるか」	(字数)800～1500字程度
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月4日(金)16:10～		オンラインにて	
中曽根 玲子	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 nakasone@kokugakuin.ac.jp	会社法（金融商品取引法を含む）に関連する最近の法律・経済ニュースから関心のあるものを取り上げて纏めなさい。ただし、カルロス・ゴーン関係のニュースは除く。	(書式)Word文書 (40字×40行で横書き) (字数)タイトル・学籍番号・氏名(メールアドレス)を除き1600字以上
			締切日時	12月4日(金)18:00		
		面接	12月8日(火)13:00～18:20		オンラインにて	レポート選考後に個別に面接を行います。オンライン面接の案内（ZoomのURL等と時間帯）を12月6日（日）までに各人に送りますので、必ず連絡先としてメールアドレスを記載してください。なお、左記の面接時間で第2希望（一人20分を予定）まで受けますので、併せて記載してください。とくに希望時間帯がない場合には、その旨の記載をしてください。ただし、希望に添えない場合があることをご了承ください。
長又 高夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 nagamata@kokugakuin.ac.jp	このゼミに参加したい理由、ならびに自己紹介文（近況を含め）	(書式)Wordもしくは一太郎形式PDFでも可 (字数)100字以上
			締切日時	12月1日(火)12:50		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
姫野 学郎	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①自己紹介（600字程度） ②志望動機（200字程度） ③民法について興味を持ったことは何か、それについて調べてみて自分なりの結論を出す（A4用紙1枚程度）。 ④レポート冒頭に以下を書くこと。 （ア）連絡先LINEのID（なければメールアドレス）、 （イ）12月5日（土）、12月8日（火）の2時限～5時限のうち、都合がよい時限（第3希望まで）。 どちらの日にちも入れてください。	(書式)A4用紙にワープロ書き(字数)左記を参照のこと
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月5日(土)あるいは12月8日(火)10:30～12:00、13:00～18:00(両日共)		オンラインにて	
平地 秀哉	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 hirachi@kokugakuin.ac.jp	本ゼミを志望する理由と、ゼミで勉強してみたい人権問題	(書式)A4版横書き氏名・学籍番号・メールアドレスを明記すること (字数)1200字以上
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月7日(月)16:00～		オンラインにて	
廣瀬 美佳	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 uh-kun@kokugakuin.ac.jp	自己紹介(関心のある問題等を中心に)&志望理由;送付するメールの件名に「2021年度廣瀬ゼミ志望」と明記すること	Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA4縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行 字数:本文2,000字以内
			締切日時	12月1日(火)24:00		
		面接	12月3日(木)14:00～		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
福岡 英明	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 hfukuoka@kokugakuin.ac.jp	興味のあるテーマとその理由	(書式)特に指定しない (字数)200字程度
			締切日時	12月1日(火)12:50		
藤嶋 亮	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題についてそれぞれ400字程度で	(書式)自由（必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください） (字数)1200字
			締切日時	12月1日(火)12:50		
		面接	12月7日(月)12:30～16:00		オンラインにて	
宮内 靖彦	・現2年生 ・すべての現3年生	面接	提出方法	所定の「面接用紙」に記入してもらいます（手続は演習内容参照） miyauchi@kokugakuin.ac.jp	オンラインにて	
			面接日時	12月7日(月)13:30～15:30 (但し、人数によって延長する場合もある)		
宮下 大志	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp	「これまでに最も興味を持った講義」	(書式)自由 (字数)1200字
			締切日時	12月1日(火)13:00		
		面接	12月5日(土)13:00		オンラインにて	
本久 洋一	・現2年生のみ	レポート	提出方法	メール送付 motohisa@kokugakuin.ac.jp	労働法ゼミを志望する理由	(書式)ワード文書1ページほど
			締切日時	12月2日(水)17:30		
		面接	12月3日(木)10:30～12:45		オンラインにて	

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	甘利 航司
演習テーマ	刑法における「阻却事由」の検討
演習内容	刑法（学）においては、構成要件にあてはまり、違法であり、そして責任がある場合に処罰されるという体系で構築されています。本ゼミは、この「違法性」と「責任」について検討するものです。例えば、違法性阻却事由として緊急避難がありますが、補充性とはどのようなものでしょうか。また、責任阻却事由として違法性の錯誤がありますが、故意説と責任説の対立とはどのようなものでしょうか。こういった教科書に必ず載っている事柄を正確に理解できるようにする、ということに目標があります。
教科書	なし。
参考文献	橋本正博『刑法総論』
備考	刑法総論か刑法各論を履修したことがある人向けです。 現在2年生若しくは3年生の人たち全てにエントリー資格があります。そして現ゼミ生も含めて、レポートを提出してもらい、そこから審査します（のである一定の状況が有利にも不利にもなりません）。

[【目次に戻る】](#)

教員名	一木 孝之
演習テーマ	民法（財産法）判例読解
演習内容	【内容】 前期：3年生は、「これまでに下級審裁判例を読んだことがない、というゼミ生一人ひとりが、最高裁判例を読みこなせるようになるためのトレーニング」を重ねます。 4年生は、判例評釈執筆と、そのための報告を行います。 後期：3年生は、毎回、民法財産法にかかわる最高裁判例を1件取り上げ、担当者のレジメを用いた報告を受けたのち、ゼミ生全員で、そこに含まれる論点を検討します。 4年生は、ゼミ論文執筆と、そのための報告を行います。 【ゼミの雰囲気】 「法学部に入ったのだから、判例が読めるようになりたい」「1年間、民法(財産法)をじっくり勉強してみたい」という人を歓迎します。 *コンパは、年2回程度です。合宿は、ゼミ生からの希望があれば、検討します。新型コロナウイルス蔓延状況次第ですが。 【問い合わせ】 メール宛先：taka1@kokugakuin.ac.jp *送信時には、件名を付したうえ、署名（学籍番号・氏名）を忘れないこと。
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治の動態分析
演習内容	このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2020年度は、公立図書館、生活保護、空き家問題、コンテンツツーリズム、災害対策など、身近な地方自治に関する文献を読んできました。また、現役公務員のゲストスピーカーによる地籍調査についての報告とディスカッションのほか、都内・都内近郊での学生による現地調査など、コロナ禍の中、可能な範囲で「現場」での学びも大切にしています。 2021年度も、2020年度と同様、前期は全員で行政・地方自治に関する図書（主に、『ガバナンス』などの地方自治関係雑誌掲載の論文、地方自治関係のテキストなど）を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A4 1枚程度）の提出、少人数でのディスカッションを行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿や、学期中の他大学との合同ゼミなども行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビューなどを可能な範囲で行う予定です。 フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々に礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションができる学生を求めます。 課題レポートには、取り上げるテーマが「なぜ」気になったのか、応募者のプライバシーを過度に犠牲にしない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。また、氏名・学籍番号、連絡先のメールアドレスを必ず記載してください。
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	伊藤・出雲・手塚（2016）『はじめての行政学』有斐閣 磯崎・金井・伊藤（2014）『ホーンブック地方自治（第3版）』北樹出版 曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書 辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など
備考	上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考文献であって、ゼミ生全員で講読するものとは限りません。また、行政・地方自治に関する基礎的な知識を習得するため、行政学A・B及び地方自治論A・Bを並行して履修することが望ましいです。 面接は指定の日（12月4日）にオンラインで行いますが、時間については、応募者とメールにてあらかじめ調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。 近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2014年）、薬師寺（2014年）、佐藤・片山（2018年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。 本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。
教科書	小熊英二（編）『平成史【増補新版】』河出ブックス，2014年。 薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	植村 勝慶
演習テーマ	「表現の自由」でディベートをしよう！
演習内容	表現の自由に関する判例を素材に、法廷教室で、検察官や弁護士、原告や被告、裁判長の役になり、裁判風でディベートします。「裁判風」と言っても厳密な裁判手続で行うわけではなく、お互いの立場を決めて主張を行うという程度です。教員は、傍聴人に徹します。「表現の自由」を入り口に、一人ひとりが「かけがいのない存在」であるという「人権」の視点から、情報化とグローバル化が進む現代日本社会のありようを考えたいと思います。たとえば、わいせつ表現物の規制、プライバシーや名誉の保護、知る権利と情報公開、報道の自由、反論権、差別的表現、忘れられる権利、放送や広告、著作権の保護、デモ行進や集会の自由などについて考えます。みなさんからご希望があれば、他のテーマも扱います（たとえば、最近議論されることの多い夫婦別姓や同性婚などの「家族と人権」の問題や、LGBTの人権問題など）。事前に配布する資料を読んで、自分なりの意見を持ち、相手の主張を理解して、元気にディベートしてください。 このゼミでは、従来、呑み会や夏合宿を行ってききましたが、現在はコロナのために休止中です。コロナが終息したらぜひとも再開したいと思っています。ゼミの一部として、よろしくお付き合いください。授業時間以外でも、3年生・4年生・教員の垣根なく、お互いにコミュニケーションをとり、気楽にディベートできる雰囲気をつくりたいと思います。 参加希望者は、kemushi@kokugakuin.ac.jp までご連絡をいただければ、応募用レポート用紙をデータでお送りします。それに記入し、12月4日(金)昼12時34分までに植村宛に返送してください。レポートの記入内容をもとに面接を12月5日(土)に行います。 ゼミの内容についてご質問やご要望があれば、kemushi@kokugakuin.ac.jp まで気軽にお問い合わせください。11月20日には、ゼミの時間を使って、ゼミ相談会を行います。現ゼミ生が本音で語ります。11月27日には、実際のゼミを公開します。いずれもZOOMになります。リンク先は、ゼミ見学の一覧をご覧ください。途中の出入りも自由ですので、ちょっと覗いてみてください。
教科書	長谷部恭男ほか編『メディア判例百選（第二版）』（有斐閣、2018年12月）
参考文献	
備考	面接の日時の都合がわるい場合には、事前にご連絡ください。なお、サークルやアルバイトによる不都合の申し出はご遠慮ください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	大江 毅
演習テーマ	民事訴訟法演習
演習内容	この演習は、民事訴訟法に関する理解を深めることを最終的な目標とします。ゼミは受講生が創りあげるものと、担当教員は考えています。具体的な授業スケジュール・使用教材等については、受講生と相談して決めます。なお、2019年度は、ゼミ生の希望により、民事模擬裁判を実施しました（民事模擬裁判の事例も受講生と協議して決めました）。しかし、COVID-19の流行の状況によっては、必ずしも希望通りにはならないこと、お含み置きください。 第1次募集では、民事訴訟法に関心があり、積極的にゼミを創りあげようとする意欲のある、現2・3年生を募集します。 ゼミ生の選考は、提出されたレポートを資料として行います。レポートには、ゼミ生の意向を可能な限りゼミ運営に反映させるため、少なくとも、ゼミ志望理由、ゼミで取り組んでみたいテーマないし課題、ゼミへの要望事項、ならびに、これまでの民事手続法系科目の受講状況について記述し（箇条書きでよい）、K-SmapyⅡのアンケート画面から応募してください。
教科書	追って指示します。
参考文献	追って指示します。
備考	無断欠席・遅刻、多数回にのぼる欠席等については、厳しく対応することがあります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	桶田 和子
演習テーマ	民法に関する重要判例の分析・検討
演習内容	皆さんは、民法についてはすでに講義を受けていると思いますが、実際に紛争に直面した際、解決方法を導き出すのはなかなか難しいのではないのでしょうか。そこで、本演習では、民法に関する重要な判例を検討することにより、民法の基礎知識を再確認し、社会生活において紛争に直面した際、問題点を把握し法的解決を図ることのできる素養を養うことを目的としています。 具体的には、ゼミナール形式で、報告者が選択した判例について調べて報告し、その報告に基づいて全員で検討を行います。はじめは、直感的に「いい、悪い」「妥当、妥当でない」でよいですが、次第に法律的な議論をしていければと思っています。そのためには、報告者以外の者もその判例について予習し、発言してもらいたいと思います。内容としては、民法（財産法）の重要な判例を取り上げていく予定ですが、詳しくは、第1回授業時に参加者と相談して決めようと思います。 評価については、学年末に各自選んだテーマに基づいて小論文を提出し、出席・報告・発言・小論文などを総合的に勘案して評価します。 応募にあたっては、「演習を受講するにあたって」という題目でレポートを12月1日12時50分までにPDFファイルでメール（okeda_k@ymail.plala.or.jp）に添付して提出してください（現ゼミ生については、レポートを免除します）。このレポートには、自己紹介、志望動機、将来について、どんなゼミにしたいかを必ず記載して下さい。尚、レポートが提出期限に遅れた場合には、いかなる理由があろうとも選考の対象としませんので注意してください。 2年間ゼミに参加することを条件とし、あらゆる面で積極的な参加をする意欲のある学生をもとめています。
教科書	第1回授業時に指示します
参考文献	適宜授業で紹介します。
備考	原則として、欠席・遅刻は認めませんので、必ず出席してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本の政治と思想を考える
演習内容	気候変動に伴う数々の異常気象、かつてないコロナ禍とそれに伴う社会的分断の加速等、我々を取り巻く環境は劇的に変化している。その中で、我々は何を目指すのか。日本を取り巻く様々な問題について、新書を中心に購読し、議論を深めていきたい。 前期は新書購読を中心とし、報告者による報告を基に議論をする。 後期は、それぞれが課題を設定し、調査。研究を行い最終的にゼミ論文として作成することを目指す。 小原ゼミへの志望者は、志望理由と最近関心のある政治、社会問題について記述し、12月4日17時までに ohara@kokugakuin.ac.jp に提出すること。ファイル送信の際には、自身のメールアドレスを本文に添付すること。面接は、ズームを志望し、提出されたアドレスに連絡をする。
教科書	特に指定なし
参考文献	
備考	例年は、夏季にゼミ合宿を実施している。実施が可能になった場合には行う可能性がある ので、課外活動にも関心のある学生の応募を望む。

[【目次に戻る】](#)

教員名	門広 乃里子
演習テーマ	ゼミ生で家族法改正案を作ろう！
演習内容	この演習では、家族法（主に民法親族編・相続編）の改正案をゼミ生たちで作っています。家族法は、戦後、日本国憲法のもと「男女の本質的平等」及び「個人の尊厳」を基本理念として大幅に改正され、今日に至っていますが、制定当時と現在とでは人々の家族観も、家族の在り方も大きく変化し、また多様化しています。そのような中、一方では基本理念の浸透に疑問が呈される状況が生じており、他方では、家族法が現実の家族がかかえる問題に十分に対応できていない状況があります。そこで、このゼミでは、現行家族法の問題点について、基本的知識をもとに、裁判例、統計資料、新聞記事、アンケート等を通して明らかにし、必要に応じて改正案を策定します。なお、昨今では、家族法の見直しも活発化していますので、その動向もふまえた議論をします。 ゼミ生は、自分たちの興味のあるテーマにつき、グループ毎に問題点と改正点をまとめ、発表し、多数決により承認されれば、これをゼミ案として発表し、外部の先生に論評していただきます。ゼミ運営はゼミ生によって自主的に行われます。例年、ゼミ長と副ゼミ長2名は選挙によって選ばれます。関心・意欲のある学生諸君、大歓迎です。 なお、現在、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、オンライン授業を行っています。ゼミ見学希望者は、下記のメールアドレス宛に希望日（11月9日、16日、23日）をお申し出ください。見学日のZoom授業URLを個別にお知らせします。また、オンライン面接についても下記のメールアドレスにお問い合わせください。面接日時等の調整を行います。 問い合わせ先：kazokuhou.zemi@gmail.com
教科書	後日指示します。
参考文献	後日指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	荏田 真司
演習テーマ	ベーシックインカムの可能性
演習内容	コロナ感染症が流行して、経済活動が停止した際、一時的であれ、収入を失う人が数多く生まれました。これに対して、政府は、国民全員に10万円の特別定額給付金を配付することで、当面の危機を乗り切ろうとしました。 今回の特別定額給付金のように、所得によらず一定の給付金を国民全員に支給する（ただし、一時的にではなく、継続的に）考え方をベーシックインカム（基礎的所得保障）と呼びます。右派・左派を問わず、以前から議論に上っていたベーシックインカムは、コロナ禍の中で、現実的な政策選択肢の1つとして考えられるようになってきました。 それでは、ベーシックインカムには、どのような長所と問題点があるのでしょうか。ベーシックインカムが主張される背景には、どのような考え方が潜んでいるのでしょうか。来年度の演習では、ベーシックインカムをテーマに、その実現可能性と背景を考えていきたいと思います。 演習は、全員で質疑応答や討論をしながら文献を読んでいく形式で行われます。参加者は、報告や議論によって、毎回積極的に演習に関わってもらいます。また、夏休み以降に、自分の選んだテーマについてゼミ論文を執筆してもらいます。 応募する人は、あなたの人となりを理解することができる「自己紹介」と「ゼミの志望理由」を合わせて800字程度にまとめて、12月3日（木）17時まで、メールでkarita@kokugakuin.ac.jpまで送付してください。折り返し、面接用のZoom情報を送付しますので、確認しやすいメールアドレスから送ってください。 なお、選考にあたっては、積極的に参加する意欲のある人を優先します。
教科書	ルトガー・ブレグマン、『隷属なき道』、2017年 ガイ・スタンディング、『ベーシックインカムへの道』、2018年 アニー・ローリー、『みんなにお金を配ったら』、2019年 デヴィッド・グレーバー、『ブルシット・ジョブ』、2020年 など（全部読むわけではありません）
参考文献	原田泰、『ベーシック・インカム 国家は貧困問題を解決できるか』、2015年 井上智洋、『AI時代の新・ベーシックインカム論』、2018年
備考	面接当日に都合が悪くなった場合や、ゼミについての質問や文献等についての質問がある場合には、karita@kokugakuin.ac.jpまでメールで申し出てください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	川合 敏樹
演習テーマ	行政法と環境法の基本的・発展的問題を学ぶ
演習内容	行政法と環境法（主に国内環境法）の制度・理論・実務などを学んだり、原告側・被告側に分かれて裁判例を検討したりします。前期では、ゼミ形式での学習に慣れるとともに、行政法や環境法の基本を理解することを目標とします。後期では、ゼミ生の希望のもといくつかのテーマを取り上げ、ゼミ生のより主体的な参加に基づいて、より各論的・専門的な考察を進めていく予定です。今年度後期は、土地や空間の管理と利用にかかわる都市計画法・建築基準法・土地収用法についての行政訴訟、まちづくりのあり方が問題となった行政訴訟、水域の管理と利用や動物の原告適格などの自然環境保護についての行政訴訟を検討しています。希望者は個人でのリサーチペーパー（ゼミ論文）の執筆も可能です。 懇親目的の企画は、ゼミ生による発案・運営のもと行なっています。ゼミで学び、ゼミを創っていくのは、他ならぬゼミ生自身です。ただ教室に来て座っているだけではなく、授業内外に関心を持った問題などに積極的に取り組み、ゼミでの学習と懇親目的の行事の双方について主体的に参加・運営できる方の応募を待っています。「ゼミに入らなければ、こんないろいろな人たちと議論や談笑をして『仲良く』なる機会なんてなかった！」と言えるゼミにしてほしいと考えます。 選考にあたって面接を実施する都合上、提出するレポートには、川合と連絡のとれるメールアドレスの記載を忘れずにお願いします。
教科書	教科書類は特定せず、適宜教材を配布・紹介します。
参考文献	開講後に指示・紹介します。
備考	面接の正確な実施時刻は、メールにて相談のうえ決めることとします。授業の都合上、上記時間帯での面接が不可能な方は、相談のうえ他の曜時に面接を行ないます。 ゼミでは、原則として遅刻・欠席を不可とします。遅刻・欠席せざるを得ない場合は、理由を付して事前に連絡すること。

[【目次に戻る】](#)

教員名	川村 尚子
演習テーマ	民法判例演習
演習内容	この演習では、民法のうち主として財産法に関する基本問題を取り上げ、具体的な事例を検討対象としながら、民法の基本的な制度、その趣旨、機能について学習していきます。基本的な知識を習得することはもちろんですが、なにが問題となっているのかを発見し、資料等を調査・収集し検討をおこなったうえで、その結果を説明して議論する力を養うことを目標とします。 具体的には、最高裁の重要判例について担当班にレジュメを用いて報告してもらい、それに基づいて全体で討論をします。担当したがって、担当班以外の受講生にも予習をして積極的に発言することが求められます。どの判例をとりあげるかについては、最初の授業のときにみなさんの意見も聞きたいと思います。学年末に各自が選択したテーマについてレポートを提出します。 評価については、レポート、出席、報告、討論・質疑などを総合的に評価します。 昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため、コンパや合宿はできませんでしたが、例年受講生の希望に応じて、受講生に企画してもらい、実施しています。
教科書	授業時に適宜指示します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
備考	原則として、欠席は認めません。 やむを得ない事情がある場合にのみ欠席を認めますが、その際には、必ず事前に川村まで直接連絡するようにお願いしています。 また当然ですが、担当班には、報告の準備のために、班のメンバーと数回話し合ったり、レジュメを作成する機会を授業時間外でとってもらうことになります。 面接は、Zoomで行います。詳細については、応募後にメールで連絡します。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	国際関係のなかの日米戦争
演習内容	来年度の前期は、日本の開戦過程を、アメリカやイギリスの動向を踏まえながら、考えていきたい。戦争には、必ず相手が存在し、決して日本側の一方的な意思決定のみによって起こるわけではない。日本はなぜ敗戦が必至の戦争に突入していったのだろうか、その問いを、国内の政治的要因のみならず、国内の経済的要因、さらにはアメリカやイギリスなど国際的要因を加味することでより立体的に考察する。具体的には、まず国内の経済ファクターについて検討した上で、アメリカの動きを考える。一般的に、日米戦争は日本の暴走によって勃発したと見なされることが多い。だが逆に、アメリカ側が日本を戦争に追い込んでいったのではないかという見方も根強く存在する。つぎに、イギリスはどのような対応を、日本の開戦過程においてとったのだろうか。この問題を、イギリスのインテリジェンスつまり国家による情報収集とその分析を中心に考え、日本との比較を行いたい。その後、英米両国と対峙した、日本の陸軍が明治以来どのように発展し変貌をとげてきたのかを見ていきたい。 前期は、報告者を1人決め、その報告を聞いた上で、自由に議論を行う。ゼミ生は、必ず1回は報告する。後期は、小論文を執筆する。自ら選んだテーマについて、その構想を報告し、全員で議論しながら、ゼミ論（12000字程度）を完成させる。報告と小論文の完成は、単位取得の必須の要件である。
教科書	牧野邦昭：経済学者たちの日米開戦：秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く（新潮選書） ジェフリー レコード：アメリカはいかにして日本を追い詰めたか：「米国陸軍戦略研究所レポート」から読み解く日米開戦（草思社文庫） 小谷 賢：日英インテリジェンス戦史：チャーチルと太平洋戦争（ハヤカワ・ノンフィクション文庫） 小林 道彦：近代日本と軍部 1868-1945（講談社現代新書） 伊藤 桂一：兵隊たちの陸軍史（新潮選書）
参考文献	その都度、指示する。
備考	演習は、毎回出席が基本である。真面目で熱意のある学生を希望する。 面接の時間が都合悪い場合、メールにて相談してください（kazutos@kokugakuin.ac.jp）

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐古田 真紀子
演習テーマ	民事手続法の判例を学ぶ
演習内容	毎回、民事手続法の判例を取り上げて、その論点を深く掘り下げていきます。民事訴訟法上の論点には、例えば「お寺の住職が解雇されても裁判上の救済は受けられないのか?」「盗んだ日記を証拠として法廷に提出することは可能?」「訴状が誤って被告に届かないまま判決が下されても、被告は判決に服さなければいけないか?」等といったものがあります。ゼミではこうした問題につき、報告担当チームが報告を行った後、ゼミ生全員で質問や意見を出してざっくばらんに話し合いながら、手続法的な考え方を修得していきます。 毎年10月に、北は北海道、南は沖縄まで全国の大学から約18ゼミ300余名の民訴ゼミ生が集う民事訴訟法合同ゼミナールが開催され、この合同ゼミへの参加が当ゼミのメインイベントとなりつつあります。4年生のサポートのもと、3年生は短期間でめきめきと実力をつけ、毎年、佐古田ゼミは他大学のゼミと、楽しく充実した討論を行っています。前日の開会式では各ゼミのゼミ長によるユーモアたっぷりのゼミ紹介があり、また、討論終了後の懇親会では他大学の学生や教員と交流を深めて盛り上がります（2020年度はオンラインで実施）。すっかりその魅力にとりつかれたゼミ生達は、合同ゼミを目標に、年間を通して主体的に計画を立て、お互いに協力し合ってゼミ活動を行っています。
教科書	
参考文献	伊藤眞 『民事訴訟法（第6版）』（有斐閣） 高橋宏志 『重点講義民事訴訟法上・下（第2版補訂版）』（有斐閣） 高橋宏志他編 『民事訴訟法判例百選（第5版）』（有斐閣）
備考	民事訴訟法 IAB、民法総則、債権各論、債権総論、物権の講義を履修済みであるか、同時に履修することが必要です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	捧 剛
演習テーマ	ちょっと専門的な英文を読んでみたい。 ついでに、それをもとに意見を述べてみたい。
演習内容	この演習は、たとえ現在はほとんど英文が読めなくても、種々の目的のために（もちろん、単なる好奇心でも OK です）、英語で書かれたちょっと専門的な文章を読んでみたい、そして、願わくは、現在よりは、そうした英文をよりよく読めるようになりたいという人向けのものとなっています。 そのために、毎回、事前に配布された英文（おそらく、その多くは新聞記事になると思います）の日本語訳を發表してもらいます（英文の長さや難易度は、参加者のスキルにあわせて調整するつもりです）。そして、その内容について各人が思ったこと、感じたことを日本語で述べてもらおうと思っています。 面接（5～10分程度）においては、主として、なぜ、この演習を志望するのかをお聞きすることになりますが、その際に、自分の「やる気」を示す材料として、以下の URL のいずれかにアクセスして、そこにある英文記事のどれか 1 つに目を通し（詳細に読む必要はありません。また、わからないところは飛ばしてしまってもかまいません）、その記事が扱っている問題について自分はどうのように考えるかを日本語で書いたものを持参してください（形式、字数はご自由に。ただし、どの記事を読んだのかがわかるように、記事の英文タイトルを必ず記載してください）。なお、現在この演習を履修している3年生については、選考を免除します。 (1) https://www.theguardian.com/law (2) https://www.independent.co.uk/voices/ (3) https://www.bbc.co.uk/news/uk
教科書	なし
参考文献	なし（それほど難しくない[と思われる]）英文資料（主として、新聞記事）を、毎回配布します
備考	なし

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	主権国家体系とその変容を考える
演習内容	演習の前期には、国際政治における主権国家体系に生じてきた変化について、理論的な側面からアプローチする。国際政治における主権国家体系と、あるいはその変化の捉え方について、これまでリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなど多様な理論潮流のなかで考察と検討がなされてきたことは論を待たないが、今回の演習では特に英国学派という理論について焦点を当て、検討を行っていききたい。 英国学派は「国際社会」という概念を用いて国際政治を捉えてきた理論潮流であり、その国際社会の拡大という見方はウェストファリア条約以来の国際関係の変化を歴史のなかで捉えなおすことを可能としている。また、そのような英国学派の研究が進展する中で、ヨーロッパからの主権国家体系の拡大という視点を超えて、それ以前の、あるいはその外部の国家体系へとその視角を広げる試みもなされてきた。そのため、やや理論的な側面が強くなるが、国際政治の原理とその変化を捉えようとする重要な潮流のひとつとして、本演習の前期では英国学派について深く学んでいきたい。 その上で、後期にはゼミ論文を書くことをひとつの目標とするが、それと並行して演習の中でさらにEUに関する文献を輪読していくこととしたい。近年度重なる危機に見舞われているEUであるが、やはり域内では地域統合を大きく深化させる中で主権国家体系を変化させてきた側面が指摘できる。そのEUの歴史と制度、そして政策のなかで表れている課題とはどのようなものかを検討していくことにより、国際的な統合がもたらす新たな問題とは何かについて考えていくこととする。 これらの文献の輪読を進めながら、各人には演習のなかでゼミ論文へ向けた研究と、研究に基づくプレゼンテーションを行ってもらうこととします。
教科書	バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』日本経済評論社、2017年 池本大輔他『EU政治論』有斐閣、2020年
参考文献	その他の論文や関連書籍について開講時にご案内します。
備考	※上記教科書は予定であり、追加・変更することがあります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 彰一
演習テーマ	生活トラブルと権利擁護をめぐる法と手続
演習内容	日本社会の中で、高齢者・障害者に対する社会的支援は、どんどん重大な課題になってきています。そのキーワードは、権利擁護（Advocacy）です。これらの人々の日常生活は、消費者紛争はもとより、虐待、事故対応、施設契約トラブル、相続・離婚などさまざまな紛争に溢れています。対応としては、訴訟や成年後見制度の利用といった司法制度の利用はもちろん、交渉、調整、など司法以外のさまざまな手段が動員されていきます。福祉や介護、医療の関係者は、権利擁護というタイトルでこうした問題を扱いますが、法律学からこれらのトラブルをみれば、憲法や民法、民事訴訟法に関わる、ごく普通の法律問題です。 成年後見制度や紛争処理の仕組みを学ぶことがメインになりますが、本ゼミでは、理解を深めるためにゼミ論の作成と主要文献の輪読をメインにおきます。 対象となるテーマが、困難な生活の中で生起するものですので、法哲学やケア論などの話題にも関わってくることもあります。
教科書	特に指定しません
参考文献	特に指定しません。
備考	なお、選考はレポート方式を採用するが、私が書いた文章を参考にすること。ただし現在のゼミ生はすでに読んでいるので、レポートを提出する必要はない。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 秀勝
演習テーマ	最高裁判例の検討
演習内容	1. 演習の目的 ・この演習の目的は、最高裁判例の検討を通じて民法の理解を深めることにあります。皆さんはこれまで、講義等を通じて民法の基本的な知識を身につけてきたと思いますが、それらの知識は、具体的な紛争を解決することができてはじめて「生きた知識」になると言えます。そこでこの演習では、近時の最高裁判例とそれに関する学説を検討すること、他の人とディスカッションすること等を通じて「生きた知識」を身に付けることを目指します。 2. 演習の内容・進め方 ・2021年度は、総則・契約に関する最高裁判例を中心に取り上げる予定です（なお、2022年度には、債権総論、債権各論（不法行為、不当利得など）に関する判例を取り上げる予定です）。ただし、状況に応じて内容を変更することがあります。 ・進め方に関しては開講時に説明します。状況に応じて変更することもあります。いずれにしてもグループ単位で作業やディスカッションを行ってもらう予定です。
教科書	開講時に説明します。
参考文献	開講時に説明します。
備考	1. 次の場合には、演習からの除籍等の対処をします。 ①無断で欠席した場合、②欠席につき連絡をしたが、その理由が欠席を正当化するものとは言えない場合、③正当な事由による欠席を6回以上した場合、④遅刻・早退をした場合（公共交通機関の遅延を除く） 2. 面接に関して （1）面接はオンラインで実施します。連絡先を知る必要がありますので、課題提出の際、アンケート画面での回答に際してメールアドレスを正確に記載してください。 （2）面接では、レポートの内容のほか、民法に関する基本的な事項（※）についても質問する予定です。 （※）次のうち1つをお聞きます：①契約自由の原則（特に契約内容の自由）と制限、②過失責任と無過失責任、③物権と債権の違い。いずれも具体例を使って説明できるように準備しておいてください。 3. その他 ・演習が上述した内容であるため、総則および契約法に関する基礎知識があることが前提となります。なお、2022年度は上記「演習内容」で示したような予定であるため、現2年生のうち本演習を2年間履修する予定の方は、もし今年度「債権総論」、「債権各論B」を履修していないときは、2021年度にこれらの科目を履修するようにしてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	芝崎 祐典
演習テーマ	国際関係論／国際関係史
演習内容	前期は国際関係論や国際関係史に関する研究専門書を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。演習の無断欠席は認めません。 後期は参加者各自が設定した個人研究テーマについての発表や、各自で選択した文献に基づいた報告を行います。個人研究テーマ設定は前期に扱う共通テーマの範囲内である必要はなく、広く国際関係論や国際関係史のなかから関心のあるトピックを自由に探してもらいます。これについて各自がリサーチし、年度の最終に各自の研究テーマをゼミ論（研究論文）にまとめて提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方になどの方法論については随時指導します。 ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを応募期間内にメールで送付してください。 （メールの件名に「國學院演習応募」と記してください。） (1) ゼミ志望理由、(2) 勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。
教科書	開講後にご案内します。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	鈴木 達次
演習テーマ	会社法判例研究
演習内容	【内容】 会社法の基礎判例を取り上げて研究を行います。 皆さんの多くは、現在会社法の講義を受けているか、あるいは過去に受けたことと思います。しかし、民法や刑法と異なり、会社法は抽象度が高く、講義だけでは、それがどのように適用されるか、イメージすることは難しかったでしょう。そのためには、具体的な事案（判例）に即して適用関係を学ぶ必要があります。このゼミが会社法の基礎判例を取り上げるのはそのような理由からです。 会社法は会社組織のあり方や取引相手との関係にまつわる法律問題を解決するルールです。大学時代にしっかり学んでおきましょう。 【運営】 司会者の進行にしたがって報告者が基調報告を行い、それに基づいて受講生全員が討論します。報告者はレジュメを用意し、それ以外の方もちゃんと予習をしてくる必要があります。 最初のうちは難解に思えるでしょうが、毎週予習してゼミに臨むことにより、少しずつ問題点が分かってきます。議論も活発にできるようになり、徐々に会社法が面白く感じられるようになるでしょう。やがては「中毒」といいほどゼミにのめりこむことになります。 【成績評価】 司会、報告および討論の内容により総合的に評価します。なお、正当な理由なく遅刻・欠席した場合には単位は認定されません。
教科書	指定しません。ただし、六法は毎回持参してください。
参考文献	開講時に紹介します。
備考	①会社法の基礎、株式会社法ⅠA、株式会社法ⅠBおよび株式会社法Ⅱの講義を履修していない方は、演習と併行して履修してください。 ②レポートの自己紹介文には、自分のプロフィール、長所（短所）、大学入学後に勉強してきたことといった本来の自己紹介のみならず、入ゼミ後にやりたいこと、ゼミに対する熱意といった点についても記述してもらって構いません。 ③例年商法系の他のゼミとの合同ゼミを実施しており、2021年度も行う予定です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	関 哲夫
演習テーマ	刑法の面白さを味わうために
演習内容	刑法の基礎知識を活かして、刑法総論・刑法各論の重要項目を考察し、その面白さが感じられるくらいまで考え抜こう。 ◇演習Ⅰ＜前期＞ ○ゼミ論報告会 4年卒業時までゼミ論文を書く ⇒「学生時代の記念作品」として執筆するゼミ論文の内容を報告する ○新聞報告会 新聞で報道された刑事事件（犯罪）を素材にして報告する ⇒生の刑事事件を素材に、犯罪の意義・要件・法効果を考えてみる ◇演習Ⅱ＜後期＞ ○専門報告会 学説・判例において議論されている刑法総論・刑法各論の問題項目を掘り下げて考察する ⇒特定の問題を深く考えてみることによって、その問題の複雑さ、考える難しさを実感し、自分の考えを固める ○ゼミ論報告会(2) 完成に向けて、自分のゼミ論文の内容、特に私見の内容を報告する
教科書	○関 哲夫『講義 刑法総論（第2版）』（成文堂・2018年） ○関 哲夫『講義 刑法各論』（成文堂・2017年）
参考文献	○佐伯仁志＝橋爪 隆編『刑法判例百選Ⅰ総論』（第8版）（有斐閣・2020年） ○佐伯仁志＝橋爪 隆編『刑法判例百選Ⅱ各論』（第8版）（有斐閣・2020年）
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高内 寿夫
演習テーマ	少年法を自由に議論する ープレゼンテーション・ディスカッション・ディベートによってー
演習内容	本ゼミナールは、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートという3つの形式によって、少年法を多角的に検討していきます。本ゼミナールの目的は、少年法に関するテーマで、ゼミ生に、プレゼンテーションやディスカッションの能力を身に付けてもらうことです。 少年法は、講義自体が3年次に配当されていることから、前期は、教員がテーマを設定した上で、ゼミ生には、ディスカッション、ディベートに習熟してもらおうと思います。前期に取り上げるテーマは、非行少年には刑罰を科すべきか保護処分か、少年法の適用年齢を18歳に引き下げるべきか、非行少年は実名報道すべきかなどです。 後期は、ゼミ生が取り上げたいテーマを自ら設定して、まず、ゼミ生に、パワーポイントなどを用いてプレゼンテーションをしてもらいます。その後、ゼミ生が提起した問題について、ディスカッション、ディベートの形式を用いて、自由に議論をしていきます。 なお、夏休みに、少年院、少年鑑別所、児童自立支援施設、児童相談所、少年刑務所などの施設見学をメインとした合宿を実施する予定です。
教科書	澤登俊雄『少年法入門 [第6版]』（有斐閣、2015年）
参考文献	テーマが決まった段階で紹介します。
備考	レポートについて] 〔参加希望者は、「少年法または少年問題で関心のあるテーマについて」という題で、300字～500字のレポートをまとめ（A4版横書き。用紙は何でもよい）、12月9日（水）午前12時までに、takauchi@kokugakuin.ac.jp に、電子メールで送付してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	高橋 信行
演習テーマ	行政法の最新判例を学ぶ
演習内容	本ゼミでは、行政法の最新判例について学習する。法学部の講義においては、一つの判例を丁寧に分析する余裕はないが、本来、判例の分析は法学部生として必須の課程であるので、このゼミを契機として、判例分析の能力を習得するとともに、行政法分野にどのような変化が生じているか、という点を学んでほしい。ゼミの進め方としては、前期においては、3～4の判例を取り上げ、参加者全員で判例の読み方・関連文献の調べ方・他の判例との比較・先例拘束性の法理の意義・行政法の一般法理論等について学ぶ。後期においては、参加者が各自報告を行い、その報告を基に全員で討議・検討を行う。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、授業の一環として夏休み（8月下旬―9月上旬）に1泊2日のゼミ合宿を開催するので、必ず参加してください（正当な理由のない欠席は認めない）。ゼミの選考はレポートと面接に基づいて行う。今年度のゼミはZoomを利用した遠隔形式で実施しているので、見学を希望する者は高橋までメールにて連絡してください（月曜日3限の時間帯に実施）。また、応募に際しては、以下に掲げた課題について1000字程度のレポートを執筆し、メールにて送ってください。 なお、指定された面接日時（12月3日13時-16時）に参加できない者は、メールにて高橋まで連絡してください。 【課題】「最近の行政法関連のニュースで興味をもったもの」について *新聞やニュースを調べた上で、行政法関係のニュースで興味をもったものを紹介してください。そして、なぜそれに興味を持ったか？関係する法的争点は何か？自分だったらどのような解決を試みるか？といった点について意見を述べてください。（1000字） また、自分の自己紹介（特技や将来の夢、ゼミに向けての意気込み等）も付記してください。（200字）
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高山 奈美枝
演習テーマ	民法演習
演習内容	この民法演習では民法の基本を習得することを目的とします。民法の基礎についてはある程度すでに学習されていると思いますが、より根本的に考察できるよう、その方法論から学んでいきます。すなわち条文を中心として民法の規定する諸制度、および判例・学説を整理し、より明晰な形で問題を提起・検討を行い、結論を導くことを試みます。またさらなる調査・研究を行っていけるような力をつけるため、資料収集や発表の方法についても学んでいきます。民法の財産法ならびに身分法のすべてを対象の中心としながら、それぞれの関心に応じた課題を見つけていただいて結構です。 民法は〈私〉の生きるためのルール集合です。それは大変豊かな内容と大きな歴史を有しています。そのようなことも学ぶ機会にしていきたいと思います。
教科書	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	近代国家と市民社会
演習内容	普段の生活の中で、国家と接する機会は、グーグルやアマゾンと接する機会と比べると、それほど多くないかもしれません。しかも、それらの企業は、あらゆる領域を横断するプラットフォームとして、国家よりも多くの個人情報を集めています。また、それらは多国籍企業という形態をとることで、税金の安い国へと逃れることもできます。電子マネーを用いたキャッシュレス化の進展によって、国家が発行する貨幣と接する機会もだんだんと少なくなっていくでしょう。しかし、このような世界的な流れを目の前にしても、国家の中に生きているという感覚は、消えていくところか、ますます強まっていくようにも感じます。例えば、オリンピックで日本の選手が金メダルを獲得したとき、喜びを感じた人も少なくないでしょう。今般の新型コロナウイルス感染症への対応では、何よりも国家の果たす役割に注目が集まりました。それでは、このような、相反するように見える二つの傾向をどのように説明すれば良いのでしょうか。 この問いに対する答えを引き出すためには、国家と市民社会が互いに深く浸透し始めたところまで歴史を遡り、検討を行う必要があります。この演習では、そのような検討の手がかりを提供する文献を取り上げ、報告と討論を行います（輪読形式）。前期は、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、研究デザインの方法を学び、研究報告会を行います。
教科書	リチャード・J・エヴァンズ『第三帝国の到来』（白水社、2018年） ※教科書は毎年変わります。
参考文献	適宜紹介します。
備考	やや難解な文献を取り上げるため、毎回の割り当ては20ページ程度と少なめにします。ただ、ページ数が少ないことは、報告準備時間が短くて済むことを意味しません。報告者は、文献に出てくる概念や歴史的な出来事を調べるなど、文献の内容を十分に理解するための努力を行うことが期待されます。難しい文献を一生懸命に読み解きたいと思う方はぜひご参加ください。また、資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。

[【目次に戻る】](#)

教員名	中川 孝博
演習テーマ	刑事訴訟法研究会
演習内容	1. 本ゼミは、刑事訴訟法の世界をもっと探求したい人が集まる場です。以下の5条件をみたした人は、ぜひ応募してください。 (1) 講義科目だけでは飽き足らず、志を同じくする仲間と刑事訴訟法を自ら研究したいと考えていること * 刑法、刑事政策は直接には扱いません。 (2) 「刑事訴訟法1B」をフル参加で履修中であること。 (3) 「刑事訴訟法2」のフル参加受講を約束すること * 面接で合格となっても、結局この科目を受講しなかった学生は、ゼミはRとなります。 (4) 各自の研究の仕上げとして、各年次にゼミ論文を書くこと * このゼミに所属した人で書けなかった人は未だかつていませんから不安になる必要はありません。 (5) 2021年2月16日にプレゼミを開き、ゼミ運営の段取りをつけ、懇親会を行う予定です。必ず参加してください。 2. 本ゼミの基本的運営方法は、以下のとおりです。 (1) 前期 前期の目標は、研究活動の基本スキルを修得することと、ゼミに慣れることです。2月のプレゼミで3・4年生混合チームを作り、チーム単位で研究、研究発表、討議を繰り返していきます。3年生は、4年生と共に研究活動を見よう見まねで開始し、中川や4年生の手ほどきを受けながら、文献の収集方法、判例の分析方法、学説の分析方法、レジュメの書き方、プレゼンの仕方、議論の仕方、論文の書き方等のスキルをつかみとってください。同時に、「刑事訴訟法2」を受講しながらさまざまな論点に触れ、自分が論文に書きたいテーマを発見してください。 (2) 夏休み合宿 夏休みに合宿を行い、ゼミ論文のテーマ報告をします。そして、テーマが似通っている者が集まってチームを再編成します。 (3) 後期 後期の目標は、夏休みに決定したテーマに基づき、各自のゼミ論文を執筆・完成させることです。ゼミの時間は、その途中経過報告・意見交換に使います。11月末には論文を完成させ、その後ピア・レビューを行い、完璧なものにすべく修正を繰り返します。 主体的に活動する人々が集えば良いゼミになりますし、お客さん意識の人ばかりだとゼミは崩壊します。幸い、過去にゼミが崩壊したケースはありません。普段のゼミ、OCへの参加、夏季合宿などなど、実に立派に、自分たちのやりたいことを自分たちで企画・運営しています。今回もやる気満々の人々が集い、活発なゼミが継続することを期待しています。 ゼミ見学はいつでも可能（事前予約不要）なので、お気軽にお越しください。 なお、新カリキュラムのもとで学んできた学生さんを受け入れる二年目の年度となります。カリキュラムの変更に応じゼミでも可否判定基準を変える予定なのですが、そうしますと、もしかしたら合格者が例年よりも増えるかもしれません。もし大幅に増えた場合、上述のような運営はできず、講義科目で行っているようなグループワーク形式を導入しないといけないかもしれません。その場合にはあらためて中川が素案を提示したうえで2月16日のプレゼミにおいてみんなで議論し、運営方法を新たに決定することになりますので、ご承知おきください。
教科書	いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ[第5版]』（日本評論社、2016年） * 法文献等の収集方法を網羅した本です。文献収集の際に活用してください。
参考文献	一律には指定しません。参考文献の見つけ方の指導はします。
備考	面接について。当日は16:10にZoomに入ってください。そこで相談し、各自の面接開始時刻を具体的に設定します。

[【目次に戻る】](#)

教員名	中曽根 玲子
演習テーマ	会社法・金融商品取引法を巡る事例を考える
演習内容	社会を騒がせた有名な事件（ニュース）であっても、法的な論点が何であったのかは意外と知られていないことが多い。本演習では、会社法（金融商品取引法を含む）に関連する最新のニュース（たとえば、企業不祥事と内部統制、株主代表訴訟、役員報酬、企業買収、インサイダー取引、不正な株価操作等などの事例）を取り上げ、問題の背景や法的問題点を調べ、実務から法規制の意義を学び、会社法・金融商品取引法を理論的に学習することを目的としている。 ゼミでは、グループワークを重視し、報告・各種のレジュメの提出を通じて、素朴な質問から法的な質問まで自ら考え答えられるようにする。広く経済社会の出来事に興味を持ち、ゼミ活動に積極的に取り組む意欲のある学生の参加を期待したい。
教科書	●会社法に関するテキスト（とくに指定しないので、授業等で使用しているものでよい） ●金融商品取引法に関するテキストは、演習内で指示する ●六法
参考文献	その他、必要な参考文献は適宜指示、または演習内で配付する
備考	ゼミの受講を希望する場合には、会社法の基礎的知識が不可欠になるので、すでに「会社法の基礎」を履修している（また履修中）か、ゼミと並行して履修することが必要である。なお、株式会社に関する法制度をさらに深く学修したい場合には、「株式会社法ⅠA」「株式会社法ⅠB」「株式会社法Ⅱ」を積極的に履修してほしい。

[【目次に戻る】](#)

教員名	長又 高夫
演習テーマ	前近代の法典・法書を読む
演習内容	昨年に引き続き、御成敗式目を読んでいく。中世社会にうまれた御成敗式目がどのような法典であったのか、歴史的に考察する。前近代社会において御成敗式目が重んじられたその理由を探っていく。歴史好きの学生さんに参加してもらいたいです。 進め方としては、まずは 51 か条を 1 か条ずつ解釈して、その内容を正確に理解した上で、律令法や公家法との関係を明らかにする。また、その後に制定された追加法との関係も考えながら、中世法の面白さを知ってもらいたい。 1 か条ずつ独立しているので、今年から参加することも問題はないと思われる。 事前に担当者をきめ、調べてきてきた内容を発表してもらい、質疑応答を行う。また解釈にあたっては、読み下し文と注釈を載せる『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）を参考にすると良い。なお鎌倉・室町期に執筆された式目の注釈書也大いに参考となる。
教科書	『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）。ただし担当箇所をコピーするだけでも良い。
参考文献	植木直一郎『御成敗式目研究』（名著刊行会）、長又高夫『御成敗式目編纂の基礎的研究』（汲古書院）、『中世法制史料集』全7冊（岩波書店）ほか
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	姫野 学郎
演習テーマ	判例とその「周辺」
演習内容	授業でも教科書・基本書でも、よく「判例・通説は～である」といいます。「下級審裁判例は～である」という表現に出くわした人もいるでしょう。 「判例」を読んで、必要な中身を把握するには、民法その他の実体法と民事訴訟法その他の訴訟法を勉強済みであるだけでは、実は必ずしも十分ではありません。そうすると、民法と民事訴訟の橋渡しになる知識をはじめ、判例のいわば《周辺》の知識が必要になってきます。たとえば昔の最高裁判所の合議では、分厚い『六法』を投げつけあって大喧嘩した、なんてこともありました。たとえば判決書のなかで「戦後に多く見られる男女関係の余りの無軌道」を大まじめに憂えた最高裁判事もいました（踏んだり蹴ったり判決）。 いろいろ小難しいことを書きました。この演習は、民法は総則・債権各論までは習ったことがあり、民事訴訟法はまだ勉強したことがない人をいちおうの対象にしています。でも、受講者の方向性・希望等にあわせて柔軟に運営していきます。やる気のある人、好奇心おう盛な人を待っています。 当日都合が付かない等締め切り前の質問その他は ghimeno@live.jp（私）か hiukhaxyx@i.softbank.jp（ゼミ生）に宛てて送ってください。
教科書	『民法判例百選』
参考文献	内田貴『民法』、大村敦志『新基本民法』
備考	3回以上無断欠席した者には単位を与えない。

[【目次に戻る】](#)

教員名	平地 秀哉
演習テーマ	現代の人権問題
演習内容	このゼミで勉強する内容や方法などは、教員からあらかじめ縛りをかけることは本意ではないので、例年参加者の話し合いによって自由に決めてもらうことにしています。したがって、来年度の内容として紹介できるものは今のところありませんが、参考までに2020年度の例を紹介すれば、前期は信教の自由と政教分離、後期は外国人の人権保障や人権の私人間効力に関する諸判例を素材にしました。 2020年度のゼミの進め方は次のとおりでした。まず、報告担当者(2～3人組)と、報告する判例、報告日を決定します。そのうえで、事前に報告予定の判例(判例集など)を全員に配布し、目を通しておいてもらいます。報告担当者には、そのテーマについてレジュメ作成の上、一通りの報告・検討をしてもらいます。その後、全員で報告についての質疑応答をします。 なお、本年度は、前期中に週2時限ずつゼミを行って前期中に通年分を終える、前期集中授業となる予定です。また、例年ですと、夏休みに合宿を行い、また数回の飲み会を行っています。本年度については、スケジュールや社会的状況をみて、可能であれば開催することにはしたいと思います。 成績は、平常点評価です。毎回出席を前提としたうえで、授業時の報告の出来、発言の頻度・内容などを考慮して評価します。したがって、本ゼミが求めるのは、憲法に関する高度な知識や学力よりも、ものを考え、それを積極的に言葉で表現する意欲、そして仲間との協調性ということになります。読み書きが得意であるのに越したことはないですが、元気でよく話す人ほどこのゼミに向いていると言えます。
教科書	特になし（適宜配布します）
参考文献	特になし（適宜配布します）
備考	演習の欠席は原則として認めません。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に申し出るようにしてください。 なお、選考面接の日時に都合のつかない者は、その旨を選考レポートに記載してください。教員から連絡の後、別途面接日時を指定します。

[【目次に戻る】](#)

教員名	廣瀬 美佳
演習テーマ	私たちを取り巻く社会と医療と法(仮)
演習内容	本演習では、基本的には、初回の授業で履修者と相談の上、その年度のテーマを決めることとなります(2020年度は、一応、担当教員の方で、本人のライフワークであり医事法の授業でも講義しているところをテーマに掲げたところ、これに興味をもった学生が応募・履修することとなりましたが、その後、新型コロナ・ウイルス禍に見舞われ、前期が始まる頃には、新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正をはじめ、感染症対策をめぐる法制度が話題になっていたことから、「感染症対策と法」をテーマに据え一途中で当該テーマのままでよいか、どのようにアプローチしていくかなどにつき、適宜確認を取りながら一進めています)。 ですので、2021年度についても、上記のように、医療問題を一応のテーマとしておきますが、面接時に履修(希望)者それぞれがどういった方面に関心を持っているか等につき把握した上で、最終的には、年度初回の授業時に全員が顔を合わせたところで(いわゆるリモートではなく、教室で直に御目にかかれるといいのですが…)、全体テーマ/個別テーマ、半期ないし通年のゼミの進め方などにつき、相談の上、決定する予定です。但し、担当教員の専門性との関係で、医療問題ないしその周辺を扱うこととした方がよりスムーズなゼミ運営につながるでしょうし、例えば憲法や刑法は全くの専門外ですので、いずれにしても、民法や医事法プロパーな法律を中心に勉強することになるものと思われます。
教科書	授業時等に適宜指示します。
参考文献	授業時等に適宜指示します。
備考	(01) 事前の志望理由等提出について： 必ず、応募締切日である 2020. 12. 01. (火) の 24:00 までに廣瀬のアドレス宛に送付・着信すること (02) 選考日時について： 他の授業との関係等で当該日時に面接を受けられない場合は、予め、その旨申し出ること (面接の終了時刻は応募人数により前後するため明記しない&面接に要する時間は応募者1人につき15分程度を目安とする)。 (03) 履修者数について： 参加者全員による議論を成立させるため、現2・3年生合わせて20名程度を上限としたい。

[【目次に戻る】](#)

教員名	福岡 英明
演習テーマ	簡単な事例問題を解く
演習内容	「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」という演習書を利用して、毎回、1問解いていく。 毎回、複数の担当者（当番の受講生）が事例問題の解答を作成し、受講者全員にそのコピーを配布する。 受講者は、配布された解答のコピーを比較検討する。 自分だったらこう考えるとか、自分だったらこのように論じるとか、など内容だけでなく、解答の論述構成も議論する。 解答に際しては、関係する最高裁判例や主要な学説を踏まえていることが要求される。 なお、第1回目は、解答作成にあたっての心得を簡単に教員が説明する。 第2回目以降、上記の方式で演習を進める。
教科書	加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」北樹出版
参考文献	憲法の授業で利用していた教科書。 その他、摘示指示する。
備考	毎年、少人数なのでかなりの頻度で担当者（毎回、少なくとも2名）になると思います。 ゼミ合宿は予定していません。

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ナショナリズムの現在・過去・未来
演習内容	「グローバル化」の時代といわれる今日においても、ナショナリズムは弱まる気配はなく、むしろその影響力を増しているように見られます。また、ナショナリズムは、日常生活での情緒・感情と結びついた現象（スポーツでの代表チームの応援など）であると同時に、国際政治を左右するような高度な原理という多面的な性格を持ち、そのあらわれ方も時代や地域によって大きく異なります。本演習では、主に政治現象としてのナショナリズムに焦点を合わせ、その歴史的変遷や多様なあり方、今後の展望などについて考察してみたいと思います。授業の進め方としては、前期はナショナリズムをテーマとした必読の新書・概説書、後期はナショナリズム論の古典的文献を全員で読み進めます（輪読形式）。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告も予定しています。また、初回の授業時に、各回の報告担当者／担当班を決定し、第2回目以降、主に担当者の報告と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。
教科書	塩川伸明『民族とネーション』（岩波新書、2008年）、藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001年）、オリヴァー・ジマー『ナショナリズム 1890－1940』（岩波書店、2009年）など。
参考文献	授業の中で適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮内 靖彦
演習テーマ	国際法の現代的問題
演習内容	国際法の現代的問題を扱う本で取り上げられている争点を分析していきます。各章の叙述を分担して要約し確認することを皮切りに、関連文献を追跡し読み、国際法の様々な分野について、論点の背景の理解や叙述の妥当性を分析していきます。国際法の制度や先例を踏まえつつ、本質や機能を考えることが重要です。報告の際は、調べてきたことをうまく組み合わせて、相手や聴衆を説得すること、相手の主張に反論し覆すことが必要です。これらの作業を通じて、理屈の立て方や説得の仕方を修得することができます。 応募者には、宮内から KEAN のアドレスにメールが2回行きます。最初のメールに従い、所定の「面接用紙」をダウンロード・記入して、宮内のメールアドレスまで返してください（12月4日（金）〆切（厳守））。次の面接のための Zoom ミーティング情報・面接時間・方法についてのメールが届いたら、所定の面接日時に KEAN のアカウントを使って、Zoom でアクセスしてください。
教科書	今のところ、森川幸一（他）『国際法で世界がわかる-ニュースを読み解く 32 講』（岩波書店、2016 年）を予定。
参考文献	必要な文献資料は随時指示する。
備考	宮内との連絡は、KEAN のメールアドレスを通じて行いますので、メーラー、またはブラウザで KEAN のメールサーバーにアクセスして、メールを確認してください。これらを確認しても、来るはずのメールが来ていない場合は、宮内まで問い合わせてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来」
演習内容	日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。 日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる前、その「55年体制」が崩れ、また日本の置かれた状況の変化もあって、55年体制の自民党長期政権の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こるようになりました。 しかし、近頃の政治を見てみると「本当に変わったのか?」、あるいは「進歩はしているのか?」と首を傾げてしまう気持ちも湧いてきてしまいます。 そこで、来年度のゼミではこの日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。 そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということをみなさんとやってゆく予定です。 そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。 なお、応募者は、 「これまでにもっとも興味を持った講義」という題目で、これまで履修した講義のうち、もっとも興味を持った講義について、その内容を紹介しながら、そこから自分が何を考えたかを記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。 なお、現ゼミ生は選考を免除します
教科書	開講時に指定します
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	面接は、zoom を使ったオンライン面接となります。個別面接ですので、全体としては 12/5（土）の 13 時開始ですが、一人一人の面接開始時間は異なります。zoom 面接の URL と、個人の面接開始時間は、レポート提出したアドレスへの返信で前日までに通知します。通知した開始時間の 2、3 分前にログインし、待機してください。 面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4 限にオンライン授業があるのでその前に設定してほしい」など）場合は、レポート提出の際のメールで知らせてください。 なお、面接は一人 15 分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、遅くとも 15 時には最後の面接を終えられるかと思います。

[【目次に戻る】](#)

教員名	本久 洋一
演習テーマ	労働判例を読む
演習内容	労働法ゼミでは、毎年度、最新の労働判例を素材として、現在の労働法上の問題について、分析し、討論しています。 本年度のゼミ生は、労働基準監督官あるいは社会保険労務士志望ということもあり、かなり意欲的で、ゼミもかなり充実したものとなりました。 担当教員としては、普通のゼミをしているつもりなのですが、かなり勉強に特化したゼミとの感想を歴代のゼミ生たちは抱いているようです。 労働法・社会保障法（3年次以上配当）の履修予定を応募の条件とします。 労働法を学びたいという強い意欲をもつ学生さんをお持ちしております。
教科書	本久洋一・小宮文人編著『労働法の基本』（法律文化社）
参考文献	ゼミ時に適宜指定します
備考	強い学習意欲が必要です。